

中学部 類型Ⅳ 「国語」 学習指導案

日 時 令和〇年〇〇月〇〇日

第〇時 〇〇：〇〇～〇〇：〇〇

場 所 中学部〇〇〇〇教室

指導者 〇〇〇〇(T1) 〇〇〇〇(T2)

〇〇〇〇(T3) 〇〇〇〇(T4)

〇〇〇〇(T5)

1 単元名 「昔ばなしを楽しもう～はっけよい のこった 金太郎～」

2 単元設定の理由

(1) 生徒観

本学習集団は、自立活動を主とする教育課程で学ぶ中学部1年生3名、2年生1名、3年生3名の7名で構成されている。国語科の目標に近い生徒で編成された実態別の学習グループである。四つ這い移動が可能な生徒、不安定であるが教員の軽い補助を受けてあぐら座位等で活動できる生徒、首が据わっていなかったり、緊張が強かったりして床で座位をとることは困難な生徒など肢体不自由の状態は様々である。7名中4名は視覚を全く、あるいはほとんど活用できていないと思われる。このうち2名は手などを自発的に動かす様子はほとんど見られないが、残りの2名は教員の言葉かけを受けて手を挙げるなど、外界を志向した自発的な動きをすることができる。視覚を活用できていると思われる3名も、教員や教材に注意を持続させることは苦手な様子が見られるが、目の前に提示された物に対して、手を伸ばして触ったり掴んだりするといった目的的な手指の操作が見られている。どの生徒も発語はなく、教師が生徒の表出に対して意味づけをすることでコミュニケーションが成り立ついわゆる「聞き手効果段階」であると言える。なお、ほとんどの生徒に「アー」「ウー」など発声する様子は見られる。また、教員などの身近な大人との音楽あそびなどでは、どの生徒も慣れた活動の中でその後の展開を予測して期待しているような表情や素振りを見せており、慣れた相手とのやりとりを楽しむ様子が見られている。

7名中2名が吸引の医療的ケアを受けており、授業中は呼吸状態などの健康面の観察を常時要する。音による発作を起こす生徒も2名いる。また、1名は昨年度からコロナ感染予防のために登校しておらず、リモートで授業に参加している。

(2) 単元観

本単元は、知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校の小学部国語科1段階「昔話などについて、読み聞かせを聞くなどして親しむこと（知識及び技能イー（ア））」、「教師と一緒に絵本などを見て、示された身近な事物や生き物などに気付き、注目すること。（思考力・判断力・表現力等Cーア）」の内容を扱っている。

「金太郎」は、物語中での場面の展開が少ない。また、登場人物等も少なく話がとても簡易である。このことは、本学習グループの生徒にとって理解がしやすいと考えた。また、小学部国語科1段階では、「体験を通してその場面で用いる言葉が存在することに気づくこと」が大切であると記されており、「はっけよい、のこった」「のこった、のこった」という独特の言葉とともに「すもう」の体験をすれば「すもう」の場面とそこで用いられる言葉の関係に気付き易いのではない

かと考え、この話を題材として扱うこととした。

（３）指導観

展開や話はできるだけ簡潔なものにすること、生徒にとって期待感を持って参加できる楽しい活動があることを重視して授業づくりを行ってきた。

物語の読み聞かせでは、注意の持続が難しい実態の生徒の集団であり、音による読み聞かせのみでは注目しづらいと考え、動く絵本の動画を視聴することとした。動く絵本ではBGMも流れている。BGMに注目しているのか、画面の動きに反応しているのか、言葉に注目しているのか分からず評価しづらいが、まずは生徒が注目できることが重要と考えた。また、毎回同じ動画を見ることは、その後の活動をイメージし易くなるというメリットがあり、また動画であればリモート参加している生徒にも教室と同じような環境が与えられるという利点もあると考えた。

本時の授業の構成は、昔ばなし「金太郎」を視聴し、自分たちも金太郎と同じように足柄山へ行き、動物たちと相撲を取り、教室に戻るというシンプルな展開にしている。これを繰り返し体験することで、次の展開に期待感を持って活動できるのではないかと考えた。そうした見通しを持つ中で、活動の中で用いられる言葉に気づいてもらいたいと考える。視聴する金太郎の動画も「金太郎が足柄山で動物たちと遊び、熊と相撲を取り、熊に勝って熊と友達になる」というシンプルな話で終わりにしている。

足柄山へ向かうという場面では、落ち葉を踏む音を聞いたり、ガタガタ道を通ったりと、分かり易い感覚から情報を得られるようにすれば、生徒が変化に気づきやすくなり、場面変化に気づき、見通しを持ちやすいのではないかと考えた。

今回扱う思考力・判断力・表現力の内容では、絵本などに示された身近な事物や生き物などに気づき、注目するとされているが、生徒の実態から、物語をなぞらえた体験を通して、事物（すもう）や出てくる具体物（動物）に気づき、注目することを単元の目標としている。視覚から情報を得にくいと思われる生徒でも登場する動物が判別しやすいように、相撲の場面ではあえて物語中に出てきた動物とは違う「牛」「馬」「鶏」を用いている。これらの動物の人形を動かすと鳴き声が聞こえるようにした。人形は大きさを変えることで判別しやすいのではないかと考えた。

本単元では、「熊」だけは教師が演じている。「人」は生徒の動きに応答でき、意図をもって生徒に関わる事ができるので、そのフィードバックを受けて生徒も注目し易いからである。単元の前半の授業では、相撲勝負の場面で3名の生徒が一斉に動物の人形やクマと相撲をとっていた。しかし、「同時に行うことで生徒にとって終わりが分かりづらい」、「人形とやっているときよりも、熊とやっている時の方が生徒の主体的な動きが出ているように感じる」といった授業評価を受け、最後の勝負は1人ずつ熊と対決することとし、行司がすぐそばで「はっけよい のこった」と声をかけるように変更した。

今後の授業の展望としては、学習が進むにつれて、授業の中で生徒が気づける言葉が多くなると考える。その中で、新しい動物を加えたり、足柄山に向かう場面で雨が降るなどわずかな変化を入れたりしながら同じ活動を繰り返すことで、本単元で扱う言葉に対してのイメージを深めていければと考えている。

3 生徒の実態

氏 名 (記号)	生活全般の実態	単元に関する実態
A	省略	省略
B	省略	省略
C	省略	省略
D	省略	省略

E	省略	省略
F	省略	省略
G	省略	省略

4 単元の目標

(1) 共通目標

- ①「金太郎」の話に親しむ。(知識及び技能)
- ②物語の中で出てきた身近な事物や生き物などに気づき、注目する。(思考力、判断力、表現力等)
- ③言葉を通じて積極的に人に関わったり、学習の見通しをもって思いをもったりしながら、言葉で表すことの良さを感じる。(学びに向かう力・人間性等)

(2) 個人目標

氏 名 (記号)	単元(題材又は主題)	教育支援プランBの目標
A	①「はっけよい、のこった」の掛け声に気づくことができる。(顔を上げる、笑顔になる) (知識及び技能) ②動物の鳴き声を聞いてその存在に気づき、	①教員や友達の名前など、日常生活で使用する身近な言葉を感じたり、触れたりすることができる。 ②言葉による関わりを受け止め、自分

	嬉しい気持ちを表現できる。(笑顔になる、近づこうとする)(思考力、判断力、表現力等)	の思いを伝えることができる。
B	①「はっけよい、のこった」の掛け声に気づき表情を変えたり、嬉しい、楽しい気持ちを表現したりすることができる。(知識及び技能) ②言葉を聞いて、次の活動に期待し、楽しむことができる。(思考力、判断力、表現力等)	①自分や友達、教員などの名前や身近な言葉が分かる。 ②言葉かけに意識を向け、周囲の人との関わりのなかで自分の思いを持ち、伝える。
C	①「はっけよい、のこった」の掛け声に気付くことができる。(知識及び技能) ②言葉を聞いて次の活動に期待をすることができる。(思考力、判断力、表現力等)	①日常生活でよく使う身近な言葉がわかる。 ②言葉かけに意識を持ち、関わりに期待を持つことができる。
D	①「はっけよい、のこった」の掛け声に気付くことができる。(笑顔になる、手を動かす)(知識及び技能) ②動物の名前や鳴き声を聞いて、その存在に気付くことができる。(動きを止める、表情を変える)(思考力、判断力、表現力等)	①日常的に繰り返し使う身近な言葉が分かる。 ②言葉での働きかけに対して表情や動きで応じることができる。
E	①「はっけよい、のこった」の掛け声に気づくことができる。(笑顔になる、手を動かす)(知識及び技能) ②動物の名前や鳴き声を聞いて、その存在に気づくことができる。(動きを止める、笑う)(思考力、判断力、表現力等)	①教員や友達の名前、場所の名前などの身近な言葉が分かるとともに、動きや感情を表す言葉に触れる。 ②言葉での働きかけに対して表情や動きで応じたり、断ったりする。
F	①「はっけよい、のこった」の掛け声に気づくことができる。(笑顔になる、目をキョロキョロさせる)(知識及び技能) ②動物の名前や鳴き声を聞き、戦う動物の存在に気付くことができる。(動きを止める、視線を向ける)(思考・判断・表現)	①家族や教員などの身近な人の名前や日常的に繰り返し使う身近な言葉が分かり、教員との言葉のやりとりの中で表情や動きで応じる。 ②言葉のやりとりの中でその後の展開を期待する。
G	①「はっけよい、のこった」の掛け声に気づくことができる。(視線を向ける、動きを止める)(知識及び技能) ②動物の存在に気付くことができる。(視線を向ける、手を伸ばす)(思考力、判断力、表現力等)	①日常生活で使う、身近な人や物、場所などの言葉がわかる。 ②言葉や物語に関心を持ち、それらの言葉や言葉のリズムから次の展開に期待する。

※学びに向かう力、人間性等については、全員単元の共通目標と同じ

5 指導計画（全9時間）

	学習内容	時数	知	思	学
1	「すもうを知ろう、体験しよう」 動く絵本「金太郎」をテレビで視聴する。 テレビで大相撲を視聴する。 先生や人形を相手に相撲を体験する	1 時間	○		○
2	「足柄山におすもうをしに行こう」 動く絵本「金太郎」をテレビで視聴する。 「金太郎」の一場面を体験する。 ①足柄山に行く ②動物たち（クマなど）と相撲対決をする ③山をおりて帰る	8 時間（本 時 6 / 8）	○	○	○

6 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点

（1）主体的な学び

主体的な学びの姿として、①「動画の画面に注目しているか、動画の音声を集中して聞いているか。」、②「自ら動物に関わろうとしているか。」、③「動物に気づき表情を変えるなどの様子が見られるか。」とした。①に向けて、テレビだけでなく、iPad を手元に置いて視聴できるようにした。②と③に向けては、動物の人形を動かすと鳴き声が聞こえる工夫をしており、これにより生徒の興味をひいたり、気づきを促したりできるようにしている。

（2）対話的な学び

対話的な学びの姿として、①「期待をもてる言葉やお気に入りの場面があるか。（教材との対話）」、②「教員の働きかけに表情を緩めたり、期待したりしているか。また、自分なりの方法で応えようとしているか。（教師との対話）」、③「友達の活動の様子に注意を向けているか。（友達との対話）」、として考えた。①に向けて、「はっけよい、のこった」を発する際の独特なリズムと間、及び落ち葉やがたがた道など生徒が期待をもてるような場面の設定により工夫している。②に向けて、教師が生徒に働きかける際に言葉かけの間や言葉の抑揚を意識するようにした。③に向けて、友達の活動の様子が見やすい配置を工夫している。

（3）深い学び

深い学びの姿として、①「自分なりにやり方を工夫して動物と相撲をとっているか。」、②「キーワードとなる言葉に気づき、自分なりに表現しようとしているか。」、③「学習したことを他の授業や生活の場面で使えているか。」とした。①に向けては、それぞれの生徒ができる動きを引き出すような支援を考えている。②に向けては、キーワードを使った後に静かな間を開けるようにした。③については、本授業内では工夫は行っていない。

7 本時の構成

(1) 本時の目標

	本時に関する目標
共通 目標	①金太郎に出てくる「はっけよい のこった」という独特の言葉の響きとリズムを感じたり、物語の一場面である「すもう」を体験したりして物語に親しむ。(知識・技能) ②「くま」やその他の動物に気づき、注目する。(思考力、判断力、表現力等) ③言葉を通じて、学習の見通しを持ち、その後に起きることを楽しみにしたり、身構えたりするなど、言葉で表すことの良さを感じる。(学びに向かう力・人間性等)
A	①「はっけよい、のこった」の掛け声に顔を上げたり、笑顔になったりする(知識及び技能) ②鳴き声などを手掛かりに目の前の動物に視線を向ける。(思考力、判断力、表現力等)
B	①「はっけよい、のこった」の掛け声に、期待感から表情を変える。(知識及び技能) ②動物とのやり取りの中で言葉による声援や勝敗を楽しみ、目の動きや表情、発声で楽しさを表現する。(思考・判断・表現)
C	①「はっけよい、のこった」の言葉で顔を上げたり、表情を変えたりする。(知識及び技能) ②動物に気づき、言葉のリズムを感じながら動物に自ら手を出して関わりを楽しむ。(思考力、判断力、表現力等)
D	①「はっけよい、のこった」の掛け声を聞いて笑顔をみせたり、手を動かしたりする。(知識及び技能) ②動物の鳴き声を聞いて、表情を変えたり手を上げたりする。(思考力、判断力、表現力等)
E	①「はっけよい、のこった」の掛け声を聞いて笑顔をみせる。(知識及び技能) ②動物の鳴き声を聞いて、目の動きを止めたり、笑ったりする。(思考力、判断力、表現力等)
F	①「はっけよい、のこった」の掛け声を聞き、笑顔になったり、目をキョロキョロさせたりする。(知識及び技能) ②動物の名前や鳴き声を聞き、動きを止めたり、視線を向けたりする。(思考力、判断力、表現力等)
G	①「はっけよい、のこった」の声を聞き、言葉を発した教師に視線を向けたり、自分の動きをとめたりする。(知識及び技能) ②目の前の動物を注視したり、手を伸ばしたりする。(思考力、判断力、表現力等)

※学びに向かう力・人間性等については、全員単元の共通目標と同じ

(2) 展開

※別紙「本時の展開」参照

8 本時の評価

(1) 生徒の学習評価

A	①「はっけよい、のこった」の掛け声を聞いて、顔を上げたり、笑顔になったり、体を動かしたりするなどの動きや表情の変化が見られたか。(知識・技能) ②クマの存在に気づき、笑顔になったり、四つ這いで近づこうとしたり、膝立ちで手を伸ばして触ろうとする様子が見られたか。(思考・判断・表現)
B	①「はっけよい、のこった」の掛け声を聞いて、目を動かしたり、笑顔を見せたりするなど期待している様子が見られたか。(知識・技能) ②動物とのやり取りを楽しみ、「もっとやりたい」「残念」などの気持ちを表情や発声、手の動きなどで表す様子が見られたか。(思考・判断・表現)
C	①「はっけよい、のこった」の掛け声を聞いて、表情を変える様子が見られたか。(知識・技能) ②言葉のリズムを感じて表情を変えながら動物と関わったり、自分で手を出したりしながら楽しむ様子が見られたか。(思考・判断・表現)
D	①「はっけよい、のこった」の掛け声を聞いて笑顔になったり、声を出したり、手を動かしたりする様子が見られたか。(知識・技能) ②動物の鳴き声に表情が強張ったり、笑ったり、腕を上げたり、声を出したりする様子が見られたか。(思考・判断・表現)
E	①「はっけよい のこった」の掛け声を聞いて、目の動きが止まったり、笑ったり、手を突っ張ったりする様子が見られたか。(知識・技能) ②動物の鳴き声に気づき、目の動きを止める、笑う、口を尖らす、体に力を入れるといった様子が見られたか。(思考・判断・表現)
F	①「はっけよい、のこった」の掛け声を聞いて、笑顔を見せたり、視線を動かしたり、脚をつっぱたり、首を動かしたりする様子が見られたか。(知識・技能) ②戦う動物の存在に気付く、視線を向けたりし、表情が固まったり、動きを止めたりするなどの様子が見られたか。(思考・判断・表現)
G	①「はっけよい、のこった」の声を聞き、視線を向けたり、動きをとめたりする様子が見られたか。(知識・技能) ②動物の存在に気付く、視線を向け、手を伸ばしたり、体を前に乗り出したり、声を発したりするなどの様子が見られたか。(思考・判断・表現)

※主体的に学習に取り組む態度の評価の観点については、知識・技能、思考・判断・表現の評価の観点に含まれ、重複するため標記しない。

(2) 教師の指導の評価（学習環境や教材教具等についての評価も含む）

ア 授業構成（指導手順、時間配当、指導形態等）について

- ・生徒たちが活動に期待感を持って取り組んでいる様子が見られたか。
- ・一人一人の生徒の活動時間は十分に確保できていたか。
- ・単元の目標に対して、集団での実施は妥当であるか。

イ 教師による支援（環境設定、教材教具の工夫等）について

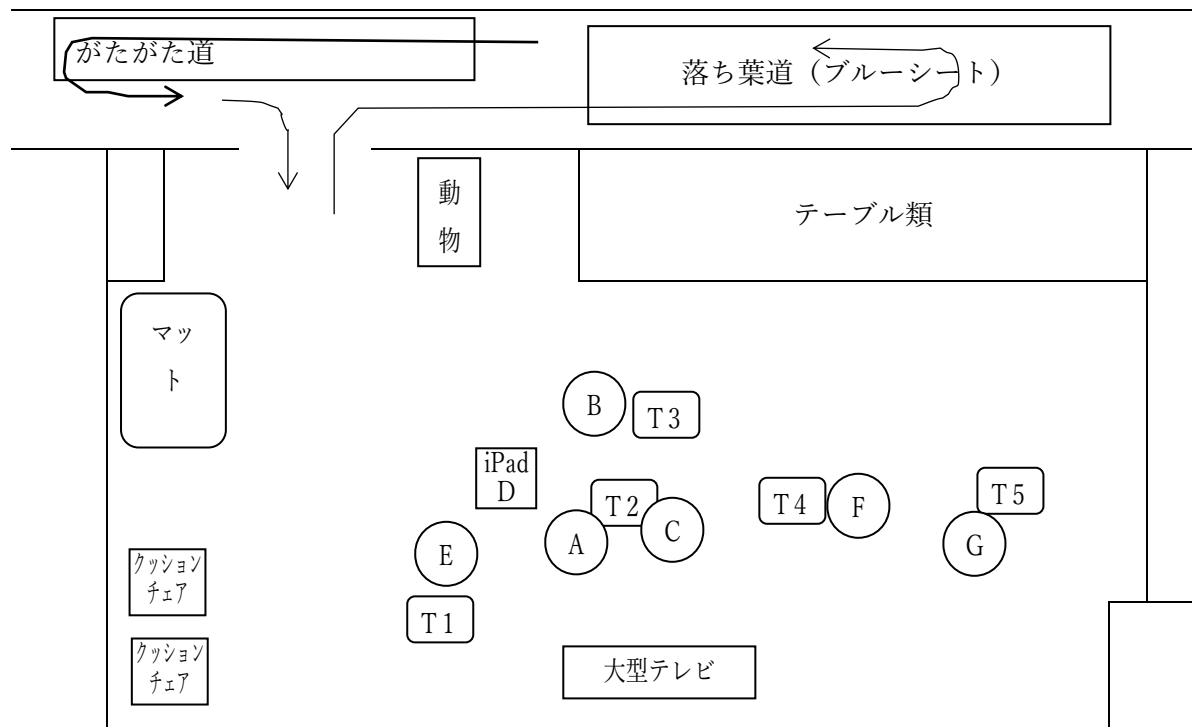
- ・教室の環境や教材は、生徒が見通しを持つための助けになっていたか。
- ・指導者の役割が適切に分けられ、効果的に指導を行えていたか。
- ・教員の言葉かけのタイミングや場面は適切だったか。十分だったか。
- ・教師が使用する言葉は適切に整理されていたか。

ウ 自由記述

9 備考（配置図、準備物、教材、参考資料等）

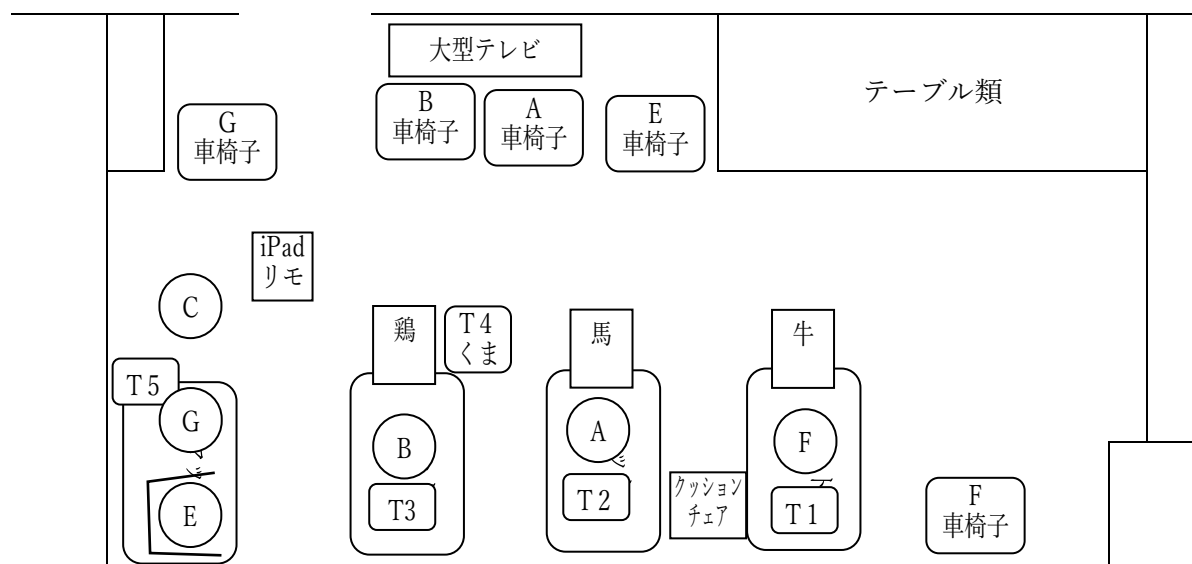
（１）配置図

【展開１】



※Dはリモートでの参加 ※出発順 EとD (T1)、FとG (T4)、A (T5)、BとC (T3)

【展開２ 足柄山到着後～相撲前半】



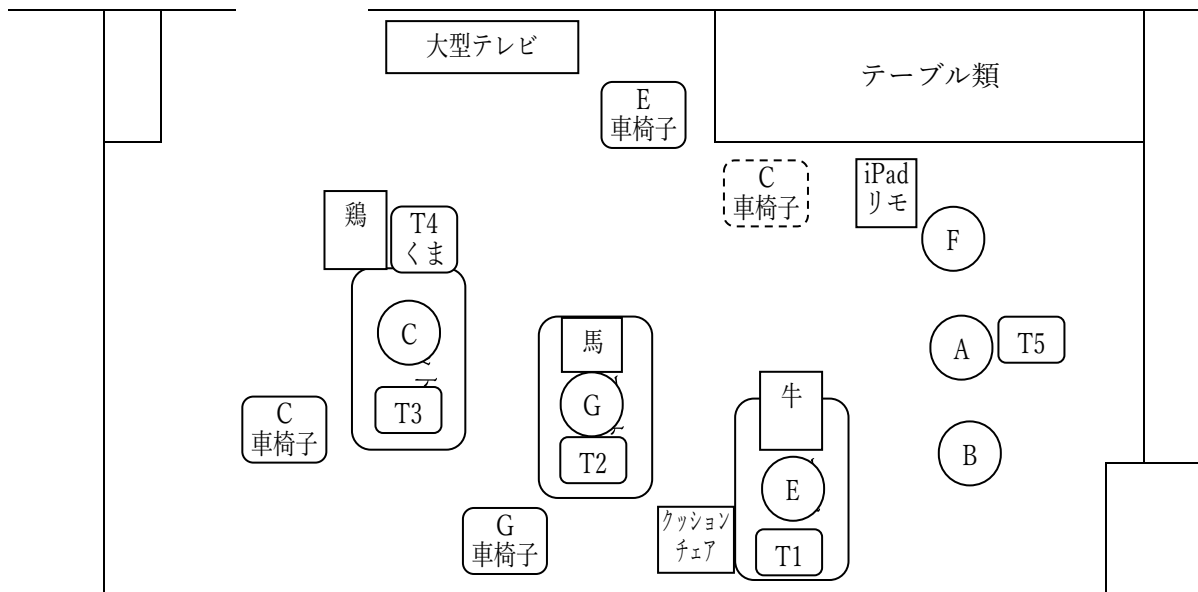
※ T1はEをクッションチェアへ、T2はT4からGを引継ぎマット上へ、T4はFをクッションチェアへ、T5はAをマットへ降ろす。T3はCを車いすのままGの隣に。その後Bを下ろす。T2はGをマット上に降ろしたら、T5と交代する。T1もT4と交代する。

※ 車椅子や外した装具は、教室の端の邪魔にならない場所へ。

※ 後半の生徒の装具はT5が外しておく。 ※クマとの勝負の前にマットを少しずらす

※ Bはクマとの勝負が終わったらすぐに車椅子に乗車し、Cの隣へ移動。

【展開2 相撲後半】

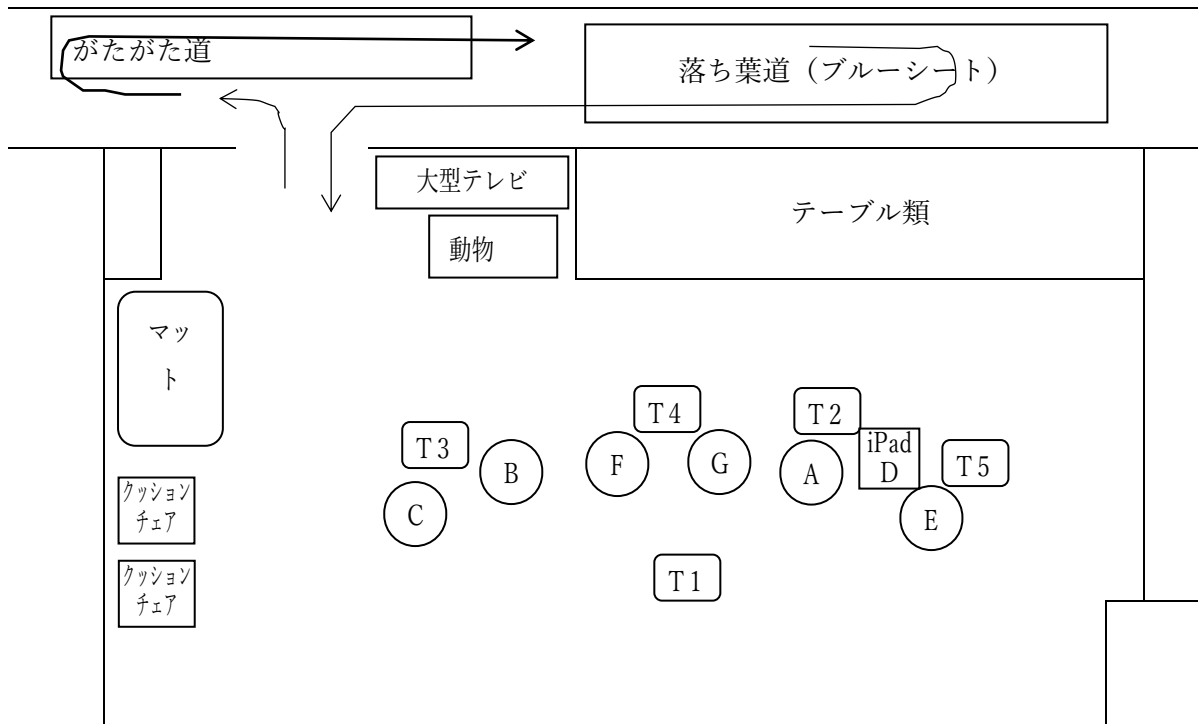


※最後の勝負は C、G、E の順。C は終わり次第 T3 が車椅子に移乗させ iPad の隣あたりへ。

G の取組が終わったら、G は車椅子へ。T2 は G の見守り。T1 はクッションチェアから E をマット上に移動させる。T3 が行司をやる。E の取組後、E が車椅子に乗ったら足柄山を出発する。

※出発順 E と D (T1)、A と G (T4)、F (T5)、B と C (T3)

【まとめ】



※ 教室到着後、T5 は廊下を片付ける。

10 教材教具

①揺れると鳴き声の出る動物の人形



②でこぼこ道×2



③落ち葉



④軍配、金太郎の前かけ



⑤熊の面

⑧教師用 iPad

⑥大型テレビ

⑨クッションチェア×2

⑦生徒用 iPad×5

⑩マット×4

本時の展開

T 1 (〇〇)、T 2 (〇〇)、T 3 (〇〇)、T 4 (〇〇)、T 5 (〇〇)

配時	学習活動、言葉	指導・支援の手立て（○）及び指導上の留意点（◇）評価の観点（※）							備考
導入 7分	・ 始まりの歌 ・ 集合 ・ 挨拶 ・ メンバーの確認	◇リモートでの参加の生徒へ音声が届いているか、教室の様子が映っているか直前にチェックする。 ○始まりの歌により生徒が学習に向けて気持ちを向けられるようにする。 ◇生徒の姿勢を整えて集合する。 ○呼名してメンバーを確認する。 ○本時で学ぶことと授業の流れを伝える。							D（リモート用）, B, F, G の iPad 準備 始まりの歌 T3 は廊下のがたがた道と落ち葉をセット
展開 1 8分	金太郎の話を動く絵本で聞く、観る 「金太郎」 「クマ」 「すもう」	○動く絵本の動画を使用する。毎回の授業で同じものを見ることを繰り返すことで、見通しを持ちやすくする。 ○生徒の実態に応じて、視聴には TV あるいは iPad を使う。 ◇見やすいように、必要に応じて位置と姿勢を直す。 ◇音に敏感な生徒がいるので、言葉かけをして動画の再生をする。 ○TV 画面、ipad の画面に集中できるように、視聴中は室内を少し暗くする。 ○視聴後に「金太郎がクマとすもうをとった」ことを振り返り、言葉を確認する。							テレビ iPad Apple TV T 2 が電気を暗くする <